

## 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

地域から信頼され必要とされる「地域に根ざした身近な府立高校」づくりのため「南河内の星」すなわち地域のリーダーを育てる学校づくりを行う。その基礎となる生徒育成目標として「何事にもあきらめずに自信を持って生き、善良な市民として活躍できる生徒の育成を図る」を掲げながら、互いの意志を尊重しあう風土を醸成することを基本として心の絆を強めあい、互いを尊重できる良好なコミュニケーションを育て、学び合い高め合う関係を構築する。その上で、すべての生徒に以下の「心と態度と力」を身につけさせる。

- (1) 健やかな体と豊かな心を育てる。
- (2) 学ぶ喜びと将来への希望を持たせ、本来自分が持つ力を発揮する態度を養う。
- (3) 反省と克己に基づく自己教育力を育成し、自己選択・自己決定ができる力を向上させる。
- (4) 地域の歴史、自然、文化に学び郷土を愛する力を付ける。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成(勉強がわかる喜びの育成)

## (1) 生徒の基礎学力を向上させる

- ① 「分る授業」・「楽しい授業」を実現するため、習熟度別少人数授業を積極的に展開し、小・中学校でのつまずきを回復し、基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ意欲を育てる。
- ② 公開授業や研究授業などの授業力向上研修を積極的に展開し、授業の質と教員の授業力の向上に努める。
- ③ ICT機器を活用し、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業改善に取り組む。

## (2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた教育課程を編成する。

- ① 難関私立四年制大学進学希望者を対象に、特別授業を実施する。(5名の入学をめざしていく)
- ② 看護・医療系進学希望者が増加している中、それに対応した教育課程の編成を行う。
- ③ 三年間の総合学習のなかで「シチズン教育」「郷土学」を導入し体験的な学習や自己探求型学習を導入する。

以上を受けて将来の長野北高校を考える上でコース制設置に向けた準備委員会を設置する。

\* 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を2年間で75%に引き上げる。

## 2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ。

## (1) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。

- ① 地域と連携したボランティア活動(クリーンキャンペーンやあいさつ運動)を通して、社会の一員としての自覚を養い、規範意識の育成に努める。
- ② 時間を守ることの大切さを徹底して指導し、欠席・遅刻・早退を減少させる。
- ③ 通学時の安全確保のため、正門・通用門及び校外においても毎日交通安全指導を行う。

\* 欠席者数・遅刻者数を毎年2割ずつ減少させ3年後には半減させる。

## (2) クラブ活動の活性化を図り、その成果を校外へ発信することにより、自己肯定感を養い、自立的発達を促す。

- ① 部活動加入率を引き上げるため、新入生に対し部活動週間を設ける。全新生が一定期間、事前に登録した部活動に仮入部し、上級生との人間関係を作ることで、加入率をアップさせる。(体験入部を2日間放課後に実施する。)
- ② 生徒に魅力あるクラブ活動を提供できるよう、教員が専門的知識の習得とスキルアップに努める。さらに体罰防止講習を実施する。

\* 生徒の部活動加入率を次年度には50%まで引き上げる(平成25年度は35%)

## 3 中退防止の推進

- (1) 1、確かな学力の育成 ・ 2、子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみに係る取り組みを実践することで、留年者・中途退学者数を30%減少させる。

## 4 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり。

## (1) 入学時のオリエンテーションの内容を見直し、生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。

- ① 学校教育と家庭教育の連携を深め、保護者からの相談を積極的に受け入れる。また、学校からはさまざまな指導の協力を要請する。
- ② カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立った指導を展開する。家庭との連携をとりながら生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。
- ③ 在籍生徒の出身中学校に年2回以上の学校訪問を行い、中学校との連携をよりいっそう密接に行う。生徒指導においては中学校教員の協力を得ながら、人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。

\* 学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」の項目を今後2年間で80%以上に引き上げる。

## (2) 学校ホームページの充実を図り、学校情報の発信を強化することで、学校の信頼を高め、必要とされている学校という自信を生徒に持たせる。

- ① 広報活動の中心組織を設置し、学校説明会・学校公開講座・楽習室(本校オリジナル名称)の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。

## (3) 3年間を通じた計画的なキャリア教育を構築し、自らの手で将来を切り開く目と力を養い育成する。

\* キャリア教育において外部人材の登用回数と資格取得の機会を増やす。(ライフプランニング研修の実施)

## 5 学校運営体制の確立と教職員の資質向上。

## (1) 校長のリーダーシップのもと、校内組織の改編に取り組み、教育活動全般の改革を推進する。

## (2) 教職員の資質向上を図るため日常的なOJTの推進と校内研修の活性化を行う。

## (3) ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教員の資質向上を図り、次世代の人材育成を行う。

## (4) 全校一斉教職員研修を実施する。(教職員全員で他府県の先駆的な取り組みを学ぶ機会とする。)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b>            学校教育自己診断の保護者からの回答率は、残念ながら昨年度からやや後退した。(47%→41%)しかし、「学校の教育方針に共感できる」は昨年81%、今年度79%と高い水準を保っている。(h24年度は55%)学校の授業参観や行事に参加しているはわずかではあるが、上昇している。            また、「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる」(77%)などを見る限り保護者の満足度は高いが、さらに高い数値の評価を得られるように工夫をしていく。中には厳しいしてきもあるが、真摯に受け止め改善を試み、より一層の学校改革を進めていく。            生徒の回答からも13ある項目のうち昨年度より満足度が下がったのは1項目のみ。(掃除が行き届いており、校舎はいつもきれいに保たれている。)その他12項目では満足度は増している。しかし、授業の分かりやすさや、教員の工夫に対する評価、またICTの活用状況への満足度は決して高いものではなく、これを本校の最重要課題であることを校長以下全職員が共有し、解決に向かって工夫している。また「将来の進路や生き方について学ぶ」項目はかろうじて50%を超えたが肯定的回答が80%を超えるよう、教員の自己研鑽へのモチベーションをさらに向上させていかねばならないと考える。</p> <p><b>【生徒指導等】</b>            生徒指導部、進路指導部が教育相談と連携して、友人関係や進路の悩みなど、気軽に相談できる体制作りに取り組んだ結果、生徒の学校へ行くのが楽しいという項目でも、肯定的評価をしているポイントは上がっているが、62%と満足できるものではなく、カウンセリングマインドをもった、進路指導・生徒指導に取り組み、80%を超える数値をめざしたい。</p> <p><b>【学校運営】</b>            職員の回答率も大幅に上昇したが、ほぼすべての項目で、昨年を下回る数値となっているのは、今年度の本校の弱点を露呈した形となっている。しかし、ピンチをチャンスに変えて、今後より一層、組織で取り組み、教員相互と家庭との連携を密にしながら、本校の状況を教員各自が分析・協議し共通理解のもと課題解決に取り組み、「教職員間の相互理解」や「諸問題への組織的対応」の項目において90%を超えるものにしなければならない。</p>	<p>●第一回学校協議会（平成26年6月19日）</p> <p>○経営計画についての説明            本校の入学者は大半を地元中学（河内長野・富田林・大阪狭山）出身者が占めているため地元根ざした学校づくりをめざし作成した。</p> <p>○授業改革について            岡山県立邑久高等学校に「協同学習の手法」を学ぶため、現地へ赴き授業見学や研究協議の研修を行った。その後、その手法を参考に独自のかたちを模索しながら、特に20代・30代の教員が、協同学習の概念を導入し新たな取り組みが始まった。また、中退防止を視野に入れた授業改革も同時に行うとともにSC（スクールカウンセラー）を活用した、生徒の心のケアができる体制をさらに整える。</p> <p>○長北マップ            本校の広報誌である。学校の特徴や取り組みを広く地域に発信し、地域の力を借りながらさらなる飛躍ができるよう取り組んでいる。楽習室は理科離れを食い止めたいという思いから小学校や公民館などで本校生とともに実験授業をはじめた。今年も7月に実施している。            公開講座は年2回長期休暇期間中に実施している。趣味から実践的なもの、学術的なものを多岐にわたって開講している。対象は地域の方々全般で概ね1講座につき20名前後の参加者があり、楽習室とともに好評である。オープンスクールは9月・11月の2回実施予定。対象は近隣中学3年生としている。本年度は生徒の実際の姿を見てもらおうと授業風景などの見学を企画している。更に学校説明会という説明会も実施予定している</p> <p>○分掌・学年より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書教務部              きちんと授業が出来るような環境作りに重点をおいている。特に少人数習熟度別の授業展開を1、2年生で実施している。現在は数学、理科、社会、英語でおこなっておりきめ細やかな指導ができています。</li> <li>・特別活動部              1年生全員対象の部活動体験を昨年度より実施している。結果、部活動加入率は向上しているがまだ不足であり、更に何か施策を講じたい。</li> <li>・保健部              心身の教育にこの数年間、力を入れている。生徒が健やかに学校生活を送ることが出来るようにカウンセラーや各機関との連携を密に行い生徒のケアに努めている。</li> <li>・生活指導部              懲戒指導について年々総数が減少し、改善方向に向かっている。ひとえに先生方の生徒指導の取り組みの結果である。</li> <li>・進路指導部              近年進学よりも就職を希望する生徒が増える中でどのように指導していくかが課題である。</li> <li>・総務部              奨学金、PTAなど校内外の関係の調整をおこなっている。特に奨学金関係については生徒、保護者を対象にきちんと説明をするようにしている。</li> <li>・1年生              入学して3ヶ月、そろそろ疲れもでてきているところであるが、生徒たちは明るく活発である。</li> <li>・2年生              11月に修学旅行を控え、若干の中だるみをしている状況である、その点について引き締めて指導をおこなっている。</li> <li>・3年生              進路実現に向けての指導を実施中、漢字検定や補習など生徒、先生ともに頑張ってくれている。</li> </ul> <p>●第二回学校協議会（平成26年12月18日）            今年度の個人情報管理体制について委員長よりマニュアル作成と体制の確立をとご指導いただいた。</p> <p>○校内の美化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室前廊下は各クラスに割り当てているが渡り廊下、階段については割り当てが行き届かない現状。業者の方に依頼して週何度か行っている。生徒指導部と協力して遅刻指導の一環で清掃をしてもらうように依頼もしていきたい。</li> </ul> <p>○授業の工夫はどう指導しているのか。近年、座学について苦手意識を持つ生徒が増えているが、長野北の現状は。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態調査はまだ不十分、調査をしたい。他校の授業方法等、学校の職員研修を行い試行錯誤している過程。新任の先生を中心に新たな取り組みを行っている。ICTの活用を率先している。またテスト期間中放課後に補習や個人指導をしてくださっている。(PTA代表より)先生方は熱意をもって指導している。その手助けとして図書室に自習スペースの設置を検討中。</li> </ul> <p>○平成26年度第1回授業アンケート結果について</p>

## 府立長野北高等学校

・英語については週3回1、2年生を中心にT-NETから派遣された外国人（ネイティブ）の先生に授業をしてもらっている。国語力の充実のため、もっと工夫に労力を惜しまない姿勢を学校全体に浸透させることが課題である。

○生徒指導（遅刻の軽減策）について

ポイント制、早朝登校によりポイントの軽減の施策を本年度実施しているが、結果としては思わしくない。来年度見直しを考えている。またスマートフォンの依存が生徒の学力向上を妨げている。保護者の協力も仰ぎ新たな指導方法を提案する。

○第1回協議会での報告された案件の進捗について

- ・再任用のベテラン教諭の授業を新任の先生が見学して学ぶ。（11月）。
- ・近隣校との協力体制については校長会で検討している段階。
- ・岡山県立邑久高等学校研修は6月に実施。アンケートを集約したうえで9月に振り返り研修を実施。

●第三回学校協議会(平成27年1月15日)

本年度の反省を踏まえ来年度の目標を設定し取り組んでいくための意見を伺い協議することを目的とする。

○平成26年度第2回授業アンケート結果について

教頭より授業アンケート実施とその集計結果の報告  
結果を踏まえ各教科で検討中である。外国語科目が全項目数値の下降がみられる。その原因を探り対処するべきである。又、41期の授業に対する取り組みの数値の下降、39期の授業に対する評価の上昇について分析する必要がある。

○学校教育計画進捗状況 及び 平成27年度学校経営計画(案)について

校長より平成27年度学校経営計画の目標の提案及び平成26年度学校経営計画の進捗状況、来年度の計画についての説明。

「教員の弱点」とは何かを学校教育自己診断の結果より考えている。ひとつは教職員の意識のズレがあるのではないか。一般社会で言われる報告、連絡、相談が不十分であった。4階3階に設置した教員控え室の影響による2階職員室の空洞化がある。情報共有がままならない環境であることが一因であると考えられる。

もうひとつは教員の中で経験主義からの個人プレーが前面にでていたのではないか。この点より組織としての改善の余地がないのかを考えたい。

更に教職員の意識として「権利と義務」をもう一度考えてもらうよう指示をした。我が校に関わらず年齢構成が偏る中でベテランといわれる複数の学校経験者にはメンター（相談者）として初任者に研修を行うような環境作りを導入する予定。

○協議内容について(主な質疑内容を)

Q：授業アンケートの英語の数値低下が気になる。原因は何か。(協議委員長)

A：授業は成立している。欠点者も少ない。しかし英語について「嫌い」という意識がほとんどを占める。又、進路に「必要がない」という生徒が多く、知識を増やそうとしない。色々対応しているが難しい現状。中学校1年生でつまづいたままで高校3年生が中学校レベルの英語の内容が理解出来ていない。(英語指導教諭)

Q：英語の習熟度別授業の効果はどうか。(協議委員長)

A：基礎から学び直しているクラスでは授業を成立させるのがやっとの状況。単語を暗記しようという意識が低い。中学校の内容を教え直すことで手一杯となっている。(角田指導教諭)

41期生の一部はICTを活用し興味をまず持ってもらう授業作りをおこなっている。またグループワークを取り入れ苦手意識を軽減する授業作りもおこなっている。(新採英語教諭)

新採英語教諭は本年度おこなった岡山県邑久高校の授業システムを取り入れ活用している。(校長)

クオリティを落としたり、レベルを下げて授業をおこなっていない。教員はどの学校でも通用する授業作りを心がけている。生徒達も学びに対してプライドをもってがんばっている。(英語指導教諭)

Q：教科書自体を教えるのは難しいことである。教科書をどのように活用していくのか。自身の経験として、留学の経験を組み入れ工夫など凝らして興味をもってもらった。英語検定の受験者は現在どの位いるのか。(協議委員長)

A：準2級合格者が1名3年生でいる。又、3学期の受験者は多く、また、1年生15名、2年生2名の受験がある。(英語指導教諭)

来年度は資格の取得を含め、大学受験希望者を個別に指導し結果を出す予定(校長)

Q：進路部長の授業を見学したが、良い授業であった。長野北高校の生徒は本当に純朴である。この良さを活かしてもらいたい。(協議委員長)

A：ベテランの良さ、新人の若い力、これらをうまく融合させる授業改革を推し進め

る。(校長)

Q：世代間のギャップを埋めることを含め、コミュニケーションをベテラン教員に指導してもらいたい。(協議委員長)

A：来年度はリスクを覚悟で若手ががんばってもらう環境を作る。そのリスクはベテランが支え、若手にノウハウを教えてもらうようにする。(校長)

Q：「忌憚ない」助言を求める環境を作してほしい。(協議委員長)

A：若手の成長を妨げないようにする。(校長)

我が校も同じ環境、がんばってもらうようにしている(協議委員)

Q：職員室の空洞化とは何か。(協議委員長)

A：教員控え室や各分掌の当番などで2階職員室に教員がいない状態が多くなっている。情報の共有のことを考えると職員室を中心に考えるように指導している。(校長)

1年生は4階であり、職員室と距離があるために連続授業やノート提出確認などの業務を控え室で行いがちになり職員室が活用されにくくなっている。(教頭)

意図して離れているわけではない。当番など合理的にまとめる必要がある。(校長)

Q：生徒の遅刻について生徒指導部には保護者と一体となってがんばってほしいところであるが、案として何かないか。(協議委員長)

A：早朝ポイントを実施した結果、遅刻指導にかかる生徒は減少したが、遅刻数については増加。遅刻の重みが軽んじられている現状がある。社会における遅刻を意味も深く考えてもらうためにも担任とのコミュニケーションや生徒指導部の指導の中で生徒の理解を深めたい。施策としては新たなものを考えている。(生徒指導主事)

Q：現在の進路状況は。(協議委員長)

A：39期は156名のうち大学、短期大学進学は現在35名、専門学校58名、就職36名、未定は10名程度。昨年と比較したところ、昨年と割合は変わらず、未定者は昨年よりは少ない。(進路部長)

Q：外部へ学校の広報活動をする機会はないのか。もっと積極的に打って出る必要がある。(協議委員長)

A：大阪府、市町村企画の説明会の他には中学校へ出向き学校説明会を実施した。(首席)

Q：地元探訪について説明を。(協議委員長)

A：39期生が2回実施した。フィールドワークをおこない、その上でレポートを作成させた。内容についてはHP等にアップし、教育委員会にも報告をしている。PTAの方々にもご協力いただき、炊き出しをしてもらった。

Q：教員は学校見学会についても地元探訪についてももっと外部にPRをするべき。(協議委員長)

A：教員は外部へのPRは下手。更に発展させていきたい。(校長)

Q：あいあい通りのPRをもっと一緒にしてもらえませんか。(委員原田さん)

A：特別活動部の先生や生徒会だけでなく、ボランティア活動を含めて他の先生にも参加してもらおう。(校長)

以上、主な質問事項と回答を示し、次年度への目標設定に活かし、全力で課題解決を進めていく。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	(1) 生徒の基礎学力を向上させる	<p>①教科での公開授業を定期的に行い、「分る授業」「楽しい授業」の定着をめざし、教員相互で授業力向上を図る。</p> <p>②従来行っていた「数学」、「英語」、「体育」での少人数授業を実施し「数学」、「英語」においては、さらに踏み込んで習熟度別授業で学力レベルに合った授業を行う。</p> <p>③実験・実習を授業の中に多く取り入れその成果などを発表する機会を設ける。</p> <p>④保護者向けの授業公開期間を学期に一度設定し、参加者の増加を図る。</p>	<p>① 授業アンケートの「授業中は集中して先生の話聞き学習に取り組んでいる」や「授業に興味・関心を持つことができた」の項目についての満足度を75%以上にする。</p> <p>② 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を75%以上にする。</p> <p>③ 「実験・実習の機会がある」を50%以上にする。</p> <p>④ 保護者の参加者数を50名以上にする。</p>	<p>① 授業アンケートの「授業中は集中して先生の話聞き学習に取り組んでいる」や「授業に興味・関心を持つことができた」の項目についての満足度はそれぞれ81%、78%であった。ICTを使ったり、協同学習の形態を取り入れたり、生徒の学びが大きくなる手立てを取り入れた成果だと思われる。(◎)</p> <p>② ICTを使う等の工夫された授業が増えてきており、「授業は分かりやすく楽しい」の満足度は44%に上昇したが(H25年40%)さらなる継続、教材の研究が必要である。(△)</p> <p>③ 実験・実習の機会について満足度は42%に上昇したが、(H25 39%)今後も体験学習、プレゼンの機会を各教科、総合学習等で設けていく。(△)</p> <p>④ 2学期は土曜日に設けたが、保護者の参加が約30名と少なかった。行事とセットで行うなど再考が必要である。(△)</p>
規律・規範の確立と豊かな心のはぐくむ	(1) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。	<p>① 地域と連携したボランティア活動(クリーンキャンペーン年間3回、あいさつ運動年間3回)を実施する。</p> <p>② 遅刻指導の方法を一部見直し、生徒に自ら時間を守ることの大切さを考えさせる。</p> <p>③ 通学時の安全確保のため、全教員で当番を組み、毎日の校外で自転車指導を行う。</p> <p>④ 部活動の活性化のために体験クラブの機会を増やすとともに外部指導者の招聘を行う。</p> <p>⑤ 「シチズン教育」の導入。国民・市民としての義務と権利について3年間で総合学習の中で系統的に学ばせる。(新規)</p> <p>⑥ 「郷土学」の導入。南河内の自然・文化・歴史を学び郷土愛を向上させる。3年間で総合学習の中で系統的に学ばせる。(新規)</p>	<p>① 千代田駅前でのあいさつ運動参加者数を100名にする。クリーンキャンペーン参加者数を70名にする。</p> <p>② 遅刻者数20%減をさらに継続する。</p> <p>③ 通学状況について学校協議会の地域代表者等から評価していただく。</p> <p>④ 「部活動、生徒会活動が活発である」を50%以上にする。</p> <p>⑤ 指標は設けない。</p> <p>⑥ 指標は設けない。</p>	<p>① 千代田駅前でのあいさつ運動参加者150名。クリーンキャンペーン参加者数70名。地域連携の重要性、充実さを生徒達は味わっているようである。(◎)</p> <p>② 12月末では7358件(H25年同時期6254件)遅刻者数が増加している。今年度より遅刻指導のポイントをなくすような工夫をしたがあまり効果はなく、再検討が必要である。(△)</p> <p>③ 全教員で毎朝、正門、西門に立ち生徒とコミュニケーションを持つとともに、服装、挨拶、自転車指導等生活規律の改善を図った。地域への信頼向上であると評価を頂いている。(◎)</p> <p>④ 「部活動、生徒会活動が活発である」は48%であった。体験入部も春に1回行ったが、2学期にも設けるなど、実施の方法にも工夫が必要である。(H25 47%) (△)</p> <p>⑤ 行事後のレポート作成等の振り返りを通じて義務、権利意識を考察させている。地域の行事等への参加者が年々増加してきており、今後の効果が期待できる。(○)</p> <p>⑥ 各学年で地域学習を実施した。特に、3年生では、2回地元を探訪することによって地域の歴史、風土、文化の素晴らしさを再確認できた。(◎)</p>

府立長野北高等学校

<p>中退防止の推進</p>	<p>(1) 生徒が生き生きと学び夢が実現する学校づくり。</p>	<p>① 家庭との連携を強化する。連絡は電話や手紙に加えて可能な限り対面式とする。生徒指導以外でも積極的に家庭訪問を実施し、保護者との人間関係を構築する。</p> <p>② 担任と副担任が協力して生徒の状況把握に努め、小さな変化も見落とさず、変化があれば面談をし、その後教員がチームを組んで指導する。</p> <p>③ 学校訪問で在籍生徒の情報を伝え、指導上の協力を要請する。</p> <p>④ 生徒の学習面での不安を除くために、学び直しの補習や講習を内容・回数ともに充実させる。</p> <p>⑤ 生徒の自尊感情を高め、自信をつけさせるために、総合的な学習の時間等を利用し、漢検・英検・数検などの資格取得を支援する。</p>	<p>① 家庭訪問を年2回は実施する。学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」の項目を70%に引き上げる。 (H25は57%)</p> <p>② 定期的な生徒の情報交換会を実施する。(年間6回以上)</p> <p>③ 3者懇談会を年3回以上行う。</p> <p>④ 業者テストを導入し、その指標を基に生徒の学習状況を把握、その上で補習内容や回数を充実させていく。</p> <p>⑤ 漢検・英検・数検の合格者120名をめざす。</p> <p>⑥ 中途退者数10%減をめざす。</p>	<p>① 「学校に行くのが楽しい」の満足度は62%であった。やや増加したが生徒指導以外での家庭訪問が少ないように思う。(H25 57%) (△)</p> <p>② 生徒の情報交換会を14回実施した。(◎)</p> <p>③ 三者懇談会は1, 2学期途中、学期末に各1回実施した。(4回) (◎)</p> <p>④ 業者テストの結果を踏まえた研修を実施し、それにもとづいて各学年で今後の対応策を考えた。(◎)</p> <p>⑤ 漢検・英検・数検の合格者が50名(英検2名、漢検48名)であった。放課後等での補習を継続して行い、生徒の意識を向上させる工夫が必要である。(△)</p> <p>⑥ 今年度末中退者数は H25年 10名(1年10名、2年0名、3年0名) H26年 5名(1年3名、2年2名、3年0名) (◎)</p>
<p>学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。</p>	<p>① カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立ち、生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。</p> <p>② 指導上悩みを抱えた生徒の情報を、出身中学校にも情報を提供し、また情報収集しながら、生徒の人間関係作り・自らの生き方考える取り組みを推進する。</p> <p>③ 河内長野市及び隣接の富田林市・大阪狭山の中学校訪問回数を増やし、連携強化を図る。</p> <p>④ 広報活動の中心組織を設置し、学校説明会・学校開放講座・楽習室の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>⑤ 携帯連絡網を新たに構築し、リアルタイムな情報提供を努める。</p> <p>⑥ ⑤の情報提供網を駆使し、HPも活用した進路情報の提供を行う。</p> <p>⑦ 教職員間の信頼関係向上のため不定期に開催されていた「担任会」を廃止、定期的な「学年会」(最低週1回開催)を創設し、課題や情報の共有と理解を浸透させる。</p> <p>⑧ 生徒の多様な進路希望に対応するため特進コース・看護医療コース・郷土市民コース(以上仮名)なるものの設置に向けた検討委員会を開設する。</p>	<p>① 相談室の利用者数10%増加(H25は29名)と生徒指導の懲戒件数10%減少をめざす。(H25は30件)</p> <p>② 近隣3市の中学校訪問回数を学期に一度行う。 (H25は152回)</p> <p>③ 学校教育自己診断の「学校からの教育情報提供」の項目の満足度90%をめざす。(H25は66%)</p> <p>④ 学校説明会を年3回実施する。その中で、体験授業・体験クラブを導入する。年間2回行っている楽習室の講師を、校外にも求め参加者200名をめざす。 (H25は188名)</p> <p>⑤ 学校教育自己診断における「保護者への情報提供」の項目で、満足度を85%以上にする。(H25は80%)</p> <p>⑥ 「進路を含めたきめ細かい情報提供」の満足度を70%にする。 (H25は56%)</p> <p>⑦ 「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」を満足度60%以上にする。 (H25は49%)</p> <p>⑧ 26年度中に方向性を打ち出す。</p>	<p>① 相談室の利用者数は1.4%増加(H26は33名)生徒指導懲戒件数は35件から20件に42%減少した。(○)</p> <p>② 毎学期中学校訪問(H26 155回)を行った。昨年度同様中退防止と広報活動を兼ねた連携強化を今後も推進していく。(◎)</p> <p>③ 「学校からの教育情報提供」の満足度はやや増加(76%)した。今後、保護者のニーズをこれまで以上によく考えて情報提供を心がける。(△)</p> <p>④ オープンスクール2回、学校見学会を2回実施した。体験授業の代わりに、実際の授業見学を実施した。楽習室を2回実施し、参加者は92名であった。講師は校内だけにとどまった(H26は4回実施し188名) (○)</p> <p>⑤ 「保護者への情報提供」についての満足度は61%であった。(H25 66%) (△)</p> <p>⑥ 「進路を含めたきめ細かい情報提供」の満足度は63%だった。(H25 56%) (△)</p> <p>⑦ 教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の満足度は26%であった。学年化だけの頼らず、日頃のコミュニケーションを増やし、情報共有、相互理解にもとづいた教育をめざす。(△)</p> <p>⑧ 教科主任会議をコース検討委員会として発足して現在27年度完成をめざして検討中である。(○)</p>